



# 釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の  
横顔  
□上□

平成六年度釧新郷土芸術賞の受賞者が決まった。選ばれたのは絵画の板谷諭使さん、金属工芸の加藤直樹さん、それに音楽の笠原茂子さんの三氏、それぞれの芸術分野で研鑽を重ね、質の高い作品や演奏が高く評価されたの受賞、今後の活躍も期待されている。三人の活動と横顔を紹介する。

## 中央展の新制作展に出品

稚内から釧路に赴任してきて四年目。釧路に来て、「美術はもちろん演

### 絵画

## 板谷諭使さん(三三)

(釧路市愛国西二の九の一八)

# 意欲的な創作活動

## 人物などリアルなタッチで

劇、文学など地元で活躍する文化人との交流がある

り、刺激を受けられるようになった。創作意欲をかき立てられるような自然に恵まれていることも、創作活動のプラスになっている」と語る。

板谷氏は古小牧市の出身。道教育大旭川校で美術を専攻、本格的に油彩画を描き出す。昭和五十七年に道北を中心とした

公募展の純生展で協会賞を受賞。平成二年には全道展佳作、三年に同奨励賞、四年に同協会賞を受けた。現在、全道展会友、

ノワール美術協会会員。中央展である新制作展に出品するなど、意欲的な創作活動をみせている。

学生時代から、世界的な自然破壊、地球環境の悪化への危機感を募らせ、自然への愛着、世界の将来への不安と期待をテーマに描き続けている。最近では自然も人間も同価値として同じ視線でとらえる、宮沢賢治の世界にひかれ、近作「カムパネルラからの便り」など直接、間接に賢治のそうした視線への共感と影響が表現されはじめてい

る。リアルなタッチで人物とその背景に室内、湖や沼などを描くが、人物は空や山、画面によく登場するアンティーク人形などと同様に世界の一部分として、客観的な存在として描かれている。

来秋には個展開催を計画中

板谷さんは平成二年に旭川で初個展を開いた後、札幌、帯広などで盛んに個展を行っているが、釧路ではMOOで一度開いたにとどまっている。来秋には釧路で大きな個展を計画 중이다。また、板谷さんらを中心に来年、釧根の高校美術部の顧問で顧問展を開くことも決まった。教師自らが創作に励むことで、生徒への刺激となることへの期待がある。

「郷土の文化振興という意味を持つ大きな賞をいただいたことに驚いたが、釧路の美術の発展のために少しでも役に立ちたい」と意欲を見せている。釧路江南高校教諭。三十三歳。